建設現場の熱中症予防対策



酷暑でも、熱中症を出さない現場へ。
現場の全員を、現場全体で守る。

建設現場の熱中症対策は、ひとつの設備や個人の注意だけでは十分ではありません。暑さを測る、体調を確かめる、身体を冷やす、早めに休む。複数の対策を組み合わせ、異変が起きる前に動ける現場をつくりましょう。

基本の対策を組み合わせ、現場全体で熱中症を防ぎましょう。



WBGT値を見える化し、休憩の判断を明確に。

WBGT値を誰もが確認できる場所に掲示。
数値に応じた休憩の基準を決め、現場全体で実行しましょう。

朝の体調確認と一杯の水を、毎日の習慣に。

体調チェックでその日の体調を共有。
朝礼後など、水分・塩分補給を現場のルールとして取り入れましょう。



ウェアラブルで、身体の異変を早めに察知。

暑熱下で働く人に熱中症対策ウォッチを装着。
身体の異変をアラームで知らせ、早めの休憩や水分補給につなげましょう。



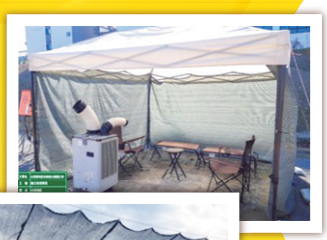
ミストファンで、暑さを和らげ粉じん対策にも。

広範囲に対応できるミストファンを設置。
送風とミストの気化で暑さを和らげ、粉じん対策にも活用しましょう。



日陰とクールスポットで、体温上昇を防ぐ。

作業エリアには日よけ設備を、休憩場所にはクールスポットを整備。
働く場所と休む場所の両方で対策しましょう。





熱中症対策は、
すべての人、すべての持ち場に。



現場には、持ち場や役割、使う言葉の違いによって、対策が届きにくい場面があります。
日陰、水分・塩分補給、伝達、見守り、救護。誰一人、熱中症になる状況をつくらないために、
必要な対策を現場のすみずみまで行き渡らせましょう。



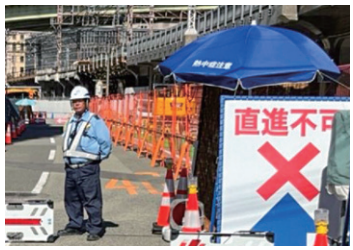
ベトナム語の啓発ポスター

言葉の違いを越えて、異変を伝えられる現場に。

外国人技能者にも伝わるよう、
母国語の啓発ポスターを
朝礼会場や詰所に掲示。
必要な情報を、使う言葉にかかわらず
伝えましょう。

炎天下の持ち場にも、必ず日陰を。

立哨が必要な誘導員の持ち場に
日よけパラソルを設置。
誘導時以外は日陰で待機できる
環境を整えましょう。



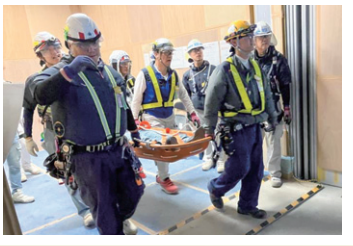
水分と塩分を、いつでも補給できる環境に。

冷たい飲料水と塩分補給品を、
休憩所や作業場所に常備。
必要なときにすぐ補給できる環境を
整えましょう。



見守りと救護の備えで、異変にすぐ対応。

熱中症対策の担当者を決め、
日々の声かけやパトロールを実施。
連絡方法の周知や救護訓練など、
万一に備えましょう。





多数の取り組み事例をウェブサイトで公開中！

大阪建設業協会の「働き方改革」ページでは、各社で実践している熱中症予防対策事例を
多数公開しています。ぜひ参考にして現場の対策に取り入れてください。

https://www.o-wave.or.jp/hatarakikata/heatillness.html